

## 精神疾患とその治療

問題 1 精神医学に貢献した人物に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 野口英世は、進行麻痺<sup>まひ</sup>の解明に貢献した。
- 2 森田正馬は、司法精神医学の発展に貢献した。
- 3 呉秀三は、電気けいれん療法の普及に貢献した。
- 4 クレペリン(Kraepelin, E.)は、精神分析療法を創始した。
- 5 シュナイダー(Schneider, K.)は、精神障害者の処遇改善に貢献した。

問題 2 脳の部位とその損傷による症状に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 前頭葉 —— 抑制が欠如して反社会的な行為を行う。
- 2 側頭葉 —— 計画を立て行動することができなくなる。
- 3 頭頂葉 —— 自発性が低下して周囲に無関心になる。
- 4 後頭葉 —— 運動麻痺<sup>まひ</sup>がないのに目的の動作ができなくなる。
- 5 小脳 —— 手が震え、四肢の筋が硬直する。

問題 3 修正型電気けいれん療法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 直前に十分量の水分を摂取させる。
- 2 精神疾患に限られた療法である。
- 3 局所麻酔下で行う。
- 4 副作用として健忘がみられることがある。
- 5 けいれんを認めなくても効果がある。

問題 4 次のうち、ICD-10(国際疾病分類第10版)で「F4. 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害」に分類されるものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一過性全健忘
- 2 気分変調症
- 3 ガンザー症候群
- 4 レット症候群
- 5 トウレット症候群

問題 5 アルコール関連障害及びアルコール依存症に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 病的酩酊<sup>めいてい</sup>は、断酒後に起こる。
- 2 コルサコフ症候群では、作話を認める。
- 3 母親の大量飲酒によって、胎児性アルコール症候群が起こり得る。
- 4 ウェルニッケ脳症では、両下肢の麻痺<sup>まひ</sup>を認める。
- 5 アルコールの離脱症状の治療で必要なのは、ビタミンAの投与である。

問題 6 次の記述のうち、精神症状の分類として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 幻聴は、思考の障害に分類される。
- 2 妄想は、知能の障害に分類される。
- 3 不安は、知覚の障害に分類される。
- 4 せん妄は、意識の障害に分類される。
- 5 作為(させられ)体験は、意欲の障害に分類される。

問題 7 初診時の精神科面接に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 まず病歴，それから主訴を聴取する。
- 2 原則として，家族，患者の順で面接を行う。
- 3 患者にわからないように面接を録音しておく。
- 4 症状を専門用語で要約するよりも，具体的内容を記述する。
- 5 開かれた質問を用いず，閉じられた質問で面接する。

問題 8 検査の種類と検査名に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 知能検査 ————— C M I
- 2 性格(パーソナリティ)検査 ——— S C T
- 3 作業能力検査 ————— M M P I
- 4 気分の検査 ————— W A I S
- 5 認知症のスクリーニング検査 ——— T A T

問題 9 次のうち、副作用として「手足の震え、小刻み歩行、無表情な顔貌」が、<sup>がんぼう</sup>そ  
ろって出現する可能性が最も高い薬物として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 抗精神病薬
- 2 抗不安薬
- 3 気分安定薬
- 4 睡眠薬
- 5 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(S S R I)

問題 10 精神療法と関係の深い概念に関する次の組み合わせのうち、正しいものを

1つ選びなさい。

- 1 家族療法 ————— 絶対臥褥<sup>がじょく</sup>
- 2 支持的<sup>しじてき</sup>精神療法 ——— 洞察
- 3 森田療法 ————— システム論
- 4 認知行動療法 ——— コーピング
- 5 自由連想法 ————— オペラント条件づけ

## 精神保健の課題と支援

問題 11 2012年(平成24年)8月に見直しが行われた「自殺総合対策大綱」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地方公共団体は、「自殺総合対策大綱」で示されている重点施策に関して、網羅的に取り組まなくてはならないとしている。
- 2 自殺発生後の遺された人への支援においては、個別心理療法の提供を最も優先している。
- 3 2007年(平成19年)に「自殺総合対策大綱」が策定された後も、高齢者の自殺死亡率は一貫して上昇を続けており、新たな対策を求めている。
- 4 選択的予防介入とは、自殺行動のリスクの高い人々を集団としてとらえ、その集団を対象とする対策のことである。
- 5 都道府県に、自殺の要因となり得る生活困窮、児童虐待、性暴力被害等の支援をワンストップで行う支援機関の設置を求めている。

問題 12 災害や事故で家族を突然亡くした遺族に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 遺族が悲しみから立ち直るのを助けるケアが、緩和ケアである。
- 2 遺族の悲嘆反応には、身体症状を含む。
- 3 死別直後に遺族が悲しみなどの感情を表出しないときは、医学的介入が必要である。
- 4 遺族が自助グループで自分の話を聞いてもらうことは、不適切な援助である。
- 5 遺族への支援を続けるうちに、支援者が自らの心に傷を受けることを、フラッシュバックという。

問題 13 地域障害者職業センターで実施している「リワーク支援事業」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 利用対象は、精神障害者保健福祉手帳の所持者に限られる。
- 2 リワーク支援は、実施期間を定めることなく行われる。
- 3 復帰しようとする職場の雇用事業主に対する援助を行うこととしている。
- 4 利用者は、職場に知られることなく支援を受けられる。
- 5 ジョブコーチによる雇用促進支援を行うこととしている。

問題 14 犯罪被害者等基本法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 犯罪被害者等とは、犯罪被害者とその家族であり、遺族を除くとしている。
- 2 法の基本理念は、犯罪被害者等の尊厳を守る、状況に応じた支援、社会復帰の3つである。
- 3 施策の対象は、被害を受けた事件についての捜査及び公判が終わった被害者である。
- 4 施策の一つとして、犯罪被害者等の居住の安定について定めている。
- 5 法務省内に被害者支援ネットワークを設置することを定めている。

問題 15 性同一性障害に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「性同一性障害特例法」では、15歳以上の性同一性障害者が、性別取扱い変更の審判を請求できると定められている。
- 2 MTF (male to female)とは、生物学的な性別は女性であるが、心理的には男性であるものをいう。
- 3 治療においては、ホルモン療法や手術療法を行う前に、望みの性別で可能な限りの社会生活を送る「実生活経験」を行うことが推奨される。
- 4 「診断と治療のガイドライン」において、性別適合手術は、年齢を問わず適応される。
- 5 中学校の保健体育の学習指導要領には、性同一性障害に関する対応方法が記載されている。

(注) 1 「性同一性障害特例法」とは、「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」のことである。

2 「診断と治療のガイドライン」とは、「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第4版)」(日本精神神経学会)のことである。

問題 16 認知症高齢者の支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 認知症疾患医療センターは、国が設置する高度専門医療研究センターである。
- 2 認知症地域支援推進員は、市町村において医療機関・介護サービス事業所などをつなぐコーディネーターである。
- 3 認知症サポーターキャラバンは、認知症高齢者支援について高い専門性を有する福祉職を養成する事業である。
- 4 レスパイトケアは、認知症高齢者が家庭を離れて休息するための方法である。
- 5 認知症サポート医は、認知症高齢者を身近で支える、かかりつけ医のことである。

問題 17 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ひきこもりの支援は、背景にある精神障害に対する特異的な支援、思春期の自立過程の挫折に対する支援の2つで構成される。
- 2 ひきこもりとは、様々な要因の結果として社会的参加を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す。
- 3 義務教育課程で不登校を経験した者の約7割が、青年期のひきこもりに移行する。
- 4 地域若者サポートステーションは、アウトリーチによるひきこもり支援を行う医療機関である。
- 5 ひきこもりの準備段階では、本人の激しい葛藤が顕在化し、家庭への暴力行動が頻回に認められる。

(注) 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」とは、厚生労働科学研究「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究(平成19年度～21年度)」において、とりまとめられたものである。

問題 18 「精神保健福祉資料(平成23年度)」による、精神科病院に新たに入院した患者とその動態に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害が、半数以上である。
- 2 40歳未満の患者が、半数以上である。
- 3 1年後も入院が継続していた患者の半数以上は、65歳以上である。
- 4 1年後も入院が継続していた患者の半数以上は、認知症である。
- 5 入院して6か月後も、半数以上が継続して入院している。

(注) 「精神保健福祉資料」とは、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が、毎年6月30日付で都道府県・政令指定都市に報告を依頼している調査のことである。



問題 19 法規とその内容に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 覚せい剤取締法 ————— 違法ドラッグ
- 2 労働安全衛生法 ————— 労働条件の決定又は変更
- 3 医療観察法 ————— 家庭裁判所
- 4 酔っぱらい防止法 ——— D P A T (災害派遣精神医療チーム)
- 5 警察官職務執行法 ——— 精神錯乱又は泥酔

(注) 1 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

2 「酔っぱらい防止法」とは、「酒に酔つて公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律」のことである。

問題 20 精神保健に関連する民間団体とその活動に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生活の発見会 ————— 神経症当事者の自助活動
- 2 A C O D A (Adult Children of Dysfunctional Families Anonymous) ——— 摂食障害当事者の自助活動
- 3 全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと) ——— 統合失調症当事者の自助活動
- 4 えじそんくらぶ ————— 認知症当事者の自助活動
- 5 ダルク(DARC) ————— 薬物依存症の家族の自助活動

## 精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 精神保健福祉士法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 法の目的は、精神保健福祉士の資格を定め、その業務の適正化を図ることで精神障害者の社会的復権を目指すことと規定している。
- 2 精神保健福祉士は、資質向上の責務として、相談援助に関する知識及び技能の向上に努めなければならないと規定している。
- 3 精神保健福祉士は、精神障害者やその家族の信用を傷つけ、その人間としての尊厳を侵してはならないと規定している。
- 4 精神保健福祉士が信用失墜行為をした場合、1年以下の懲役又は30万円以下の罰金に処せられると規定している。
- 5 精神保健福祉士は、5年に一度の厚生労働省が定めた研修を受けなければならないと規定している。

問題 22 次の記述のうち、日本精神保健福祉士協会倫理綱領の目的に規定されているものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 他の専門職や全てのソーシャルワーカーと連携する。
- 2 客観的証拠に基づいた実践を展開する。
- 3 専門職としての知識・技術を理解する。
- 4 所属機関と地域社会から信頼を得る。
- 5 福祉と平和に満ちた社会を形成する。

問題 23 福祉専門職の国家資格に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士と社会福祉士は、基盤となるソーシャルワークの理念、倫理、価値において異なる。
- 2 精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士は、それぞれが福祉の相談援助専門職として異なる法律によって規定された国家資格である。
- 3 社会福祉士は、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者を相談援助の対象としている。
- 4 社会福祉士は、精神保健福祉士と同様に、対象者に主治医がいる場合には、その指導を受けると規定されている。
- 5 社会福祉士は、精神保健福祉士と同様に、日常生活への適応のために必要な訓練を行う、リハビリテーションの専門職としても位置づけられている。

問題 24 ソーシャルワーク理論の代表的な人物とキーワードに関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ロビンソン(Robinson, V.) —— 状況の中にある人
- 2 ホリス(Hollis, F.) —— 課題中心アプローチ
- 3 ゴードン(Gordon, W.) —— 4つのP
- 4 ジャーメイン(Germain, C.) —— 問題解決アプローチ
- 5 マイヤー(Meyer, C.) —— エコシステム理論

問題 25 社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 日本精神保健福祉士協会倫理綱領の中で、「倫理基準」の「社会に対する責務」において社会的包摂の実現がうたわれている。
- 2 国連の「精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則」(1991年)で、精神障害者を対象に社会的包摂という用語が初めて用いられた。
- 3 ヴォルフェンスベルガー(Wolfensberger, W.)は、社会的包摂の核になるものとして「ソーシャルロール・パロリゼーション」を提唱した。
- 4 国際ソーシャルワーカー連盟(I F S W)による「ソーシャルワークの定義」(2000年)で、社会的包摂の促進努力がソーシャルワークの価値として強調されている。
- 5 ソロモン(Solomon, B.)は、知的障害者の生活を可能な限り通常的生活状態に近づけることとして社会的包摂を提唱した。

問題 26 精神保健福祉士が行う相談援助に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士は、クライアントの利益を優先に考え、保護的な配慮からクライアントに不利になる情報は伝えず、リスクを回避する。
- 2 パターナリズムは、精神保健福祉士とクライアントの関係においては発生せず、医師と患者の関係において発生するものである。
- 3 精神保健福祉士は、専門職としての権力を持つため、クライアントの権利を侵害する可能性がある。
- 4 長期にわたる入院の場合、クライアントが退院して地域で暮らすことによって、かえってストレスを増大させることになるため、入院継続が望ましい。
- 5 精神保健福祉士は、セルフヘルプグループ活動において、積極的にグループワークの技法を用いて自立を促進させる。

問題 27 医療機関における専門職に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 看護師は、薬剤の投与や採血、創部の処置などの医療行為については、自身の判断で行うことができる。
- 2 作業療法士は、医師の指示のもとに状態像の評価やリハビリテーションに取り組む、業務独占の国家資格職種である。
- 3 臨床心理士は、医師の指示のもとに心理検査や心理療法を実施する国家資格職種である。
- 4 薬剤師は、医師等の処方箋しょうほうせんに疑わしい点がある場合には、自身の判断で調剤を変更することができる。
- 5 管理栄養士は、傷病者に対する栄養指導並びに施設における給食管理及び施設での栄養改善上の必要な指導等を行う。

問題 28 障害者の権利擁護に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワークにおけるアドボカシーとは、単なる弁護や代弁ではなく、生活を支援していく上で、幅広く積極的な実践内容を含んでいる。
- 2 ピアアドボカシーとは、クライアント自らが法の遵守を監視し、法の問題点を吟味し指摘する役割をいう。
- 3 合理的配慮とは、障害者が他の者と平等にすべての人権や基本的自由を享有するのに、必要かつ適当な変更や調整のことをいう。
- 4 ブローカーロールとは、ソーシャルワーカーの弁護者としての役割をいう。
- 5 クラスアドボカシーとは、支援者の側からではなく、当事者自らが主張することを支援することをいう。

問題 29 多職種連携の意義に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 様々な専門職の視点を基に、利用者の理解について全人的な把握が可能になる。
- 2 専門職の間で発生する対立・葛藤<sup>かつとう</sup>を未然に防止することができる。
- 3 利用者の意向確認が省け、専門職による方針決定が迅速になる。
- 4 医学モデルによる治療システムに適しており、医師の指導が徹底できる。
- 5 異なる立場の専門職同士が共に学び合い、専門職として成熟していく機会になる。

## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。

〔事例〕

Aさん(23歳、男性)は、幼いころから友達ができず、大学時代も人に合わせるのがとても苦手で、友達との会話では何を話してよいのか、相手が何を求めているかも分からず、次第に話の輪に入れなくなっていった。

Aさんは、大学を卒業し広告会社に就職したが、職場でのコミュニケーションが上手くいかず、「自分はダメな人間だ」と自分を低く評価して、気分が落ち込んだ状態が続くようになった。しかし、自分ではどうすればよいのか分からず、また誰にも相談せず1人で悩んでいた。このような様子を見てAさんのことを心配したB上司は、会社が契約しているプログラムを利用することを考えた。(問題 30)

B上司の勧めによりプログラムのカウンセリングを利用する中で、Aさんは、自分が発達障害かもしれないと思うようになった。その後、精神科医の診察の結果、アスペルガー症候群という診断を受け障害に関する詳しい説明を聞いて、それまで訳が分からず苦しんでいたことの原因が、障害によるものであると分かりほっとした。そして、プログラムを提供している事業所のC精神保健福祉士に相談するうちに、自分自身が対処する方法を身につけたいと考えるようになった。(問題 31)

相談を受けたC精神保健福祉士は、Aさんが取り組むプログラムに関する相談に乗るだけでなく、他の専門職や機関との支援体制を作るために連携を行った。さらに、Aさんの今後を考え、専門職がかかわるだけではなく、B上司や同僚が職場でできるサポートをAさんに提案して実施することとした。(問題 32)

その後、C精神保健福祉士の支援を受けたAさんは、少しずつではあるが職場で同僚とも世間話ができるようになった。その結果、仕事を辞めることなく継続して働くことができている。

問題 30 次のうち、Aさんが利用できるプログラムとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 複合的自殺対策プログラム
- 2 従業員支援プログラム(EAP)
- 3 リワークプログラム
- 4 社会生活力プログラム(SFA)
- 5 包括型地域生活支援プログラム(ACT)

問題 31 次の記述のうち、Aさんに対するC精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニケーション面の課題を指摘して、改善を求める。
- 2 相手に合わせられないことが問題だと伝え、相手に合わせるように指示する。
- 3 B上司の指示を守ることの重要性を伝え、その指示に従うように言う。
- 4 質問や確認の方法を一緒に考え、可能な方法を探す。
- 5 今の会社を辞めて、就労継続支援事業を利用するように勧める。

問題 32 次のうち、そのサポートとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーション
- 2 ピアサポート
- 3 ケアマネジメント
- 4 フォーマルケア
- 5 ナチュラルサポート



## (精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。

### [事 例]

Dさん(68歳、男性)は、30歳でうつ病を発病、入院し、それまで勤めていた会社を退職せざるを得なかった。何度か再発しながらもデイケアで知り合った妻と40歳で結婚し、その翌年に妻の兄が経営するコンビニのパート従業員として働き始め、今は病状も落ち着いている。かつて入院していたU病院に2週間に1回の通院を欠かすことなく、毎月の元デイケア利用者の会合(以下「OB会」という。)にも顔を出して、他のメンバーの相談に乗ることも多い。OB会では、E精神保健福祉士がDさんへの対応を主に担っている。

ある日、Dさんの妻からE精神保健福祉士に電話があり、最近、接客でうっかりミスが目立つようになって心配だという。詳しく話を聞くと、半年くらい前から物忘れをするようになり、年相応のことと考えてあまり気にしていなかったという。E精神保健福祉士は、先月のOB会でDさんと他のメンバーとの間で「言った、言わない」の行き違いがあった際に、Dさんと面談したところ、本人も物忘れを気にしていたことを思い出した。主治医の診察により、Dさんは軽度認知障害の疑いがあると指摘された。それを受けて、次の通院日にE精神保健福祉士は、Dさんと妻と今後のことについての話合いの場を持った。(問題 33)

Dさんは、引き続きOB会に参加し、これからもパート従業員として働きたいが、そのことを周囲に理解してもらおう自信はないと述べた。E精神保健福祉士は、Dさんの希望にそいながら日常生活の維持を図るために、日頃から連携の取れている地域包括支援センターなどの関係する専門職間で情報交換を行った。(問題 34)

その結果を受けて、Dさんや他の利用者の双方が安心して過ごせるようにOB会プログラムに配慮を行うことになった。また妻の兄に提案し、コンビニにおいてDさんが仕事を継続できるように取り組んだ。(問題 35)

E精神保健福祉士の働きかけもあって、Dさんの状態も安定しているが、継続的に家庭、OB会やコンビニでのDさんの様子を確認することになっている。

問題 33 次の記述のうち、この話合いでE精神保健福祉士が行った対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Dさんに対して、妻が心配しているほどの状態になっていることについての自覚を促して、事態を放置していたことの反省を求める。
- 2 妻に対して現実をありのまま受け入れ、いずれDさんが寝たきりになる可能性も考慮し、介護技術の習得を求める。
- 3 直後のOB会で、会のメンバーにDさんには軽度認知障害の疑いがあることを伝え、今後Dさんが参加したときのかかわり方をメンバーに助言する。
- 4 Dさんの外来に同行し、Dさんとともに状況をより細かく主治医に説明することを妻に勧める。
- 5 Dさんの自己決定が難しいと判断し、妻と今後の支援方針を立てる。

問題 34 次のうち、この専門職間のネットワークをピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)がいう「4つのシステム」として位置づけた場合、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アクションシステム
- 2 クライアントシステム
- 3 ターゲットシステム
- 4 ワーカーシステム
- 5 チェンジエージェントシステム

問題 35 次のうち、E精神保健福祉士の取組として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ユニバーサルデザイン
- 2 アファーマティブアクション
- 3 ソーシャルアクション
- 4 アドボカシー
- 5 行動変容アプローチ

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次の記述のうち、「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」の内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳制度を創設し、精神障害者も障害福祉サービスを利用できるよう求められている。
- 2 精神障害者居宅介護等事業を創設し、ホームヘルプサービスを充実するよう求められている。
- 3 条件が整えば退院可能とされる72,000人の入院患者について、退院・社会復帰を目指すことが初めて指摘され、総合的な取組が求められている。
- 4 市町村を中心に、精神障害を含め障害種別、疾病を超えた一元的なサービスに統合し、サービス利用の利便性を高めることが求められている。
- 5 相談支援体制やケアマネジメントにおける医療・福祉の連携等、地域生活支援体制を充実・強化することが求められている。

(注) 「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」とは、2009年(平成21年)9月にとりまとめられた「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会報告書」(厚生労働省)として公表されたものである。

問題 37 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う権利擁護活動の代弁機能として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントの肩や腕に新しいあざがあるのを見つけたため面談を設定し、クライエントの気持ちに寄り添いながら、状況把握に努めた。
- 2 病棟看護師から家族の面会日時が変更になったとクライエントに伝えてほしいと言われたため、面接時にクライエントに伝言した。
- 3 障害年金の申請に行くクライエントの依頼を受けて、市役所の担当者にクライエントの来訪の目的、意図を事前に電話で伝えた。
- 4 被虐待障害者が保護されたときに備えて、自立支援協議会のメンバーと協働して一時保護できる環境の整備について自治体に働きかけた。
- 5 地域活動支援センターのプログラムの一つとして、障害者の権利に関する条約についての学習会を開催し、精神障害者の権利について再確認した。

問題 38 精神障害者等への支援機関に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 児童相談所では、放課後等デイサービス事業を行っている。
- 2 福祉事務所では、退院促進や地域移行・地域定着支援を行っている。
- 3 都道府県社会福祉協議会では、精神障害者保健福祉手帳の申請受付を行っている。
- 4 地域包括支援センターでは、包括型地域生活支援プログラム(ACT)を行っている。
- 5 公共職業安定所(ハローワーク)では、リワークプログラムを行っている。

問題 39 精神科医療機関の精神保健福祉士が行う支援に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 支援は、医師や看護師の指示により開始する。
- 2 インテークでは、関係づくりを基軸とした情報収集を心がける。
- 3 アセスメントは、診断・治療に役立つ疾病や障害の現状把握を目的にする。
- 4 支援計画は、精神保健福祉士があらかじめ設定した支援課題に基づき立案する。
- 5 介入では、家族や社会資源との関係を調整するために、ジェノグラムを用いる。

問題 40 就労移行支援事業所に勤務するF精神保健福祉士は、来週、地域の企業に就職が決まったGさんと面接を行った。Gさんは、面接を通して自分の変化を振り返り、働くための生活習慣を身につけられたことと、自分に合った仕事を見つけるという目標を達成できたことに満足していた。しかし、サービスを受け始めたころのプログラムが単調で物足りなかったことと、就労までに時間がかかり過ぎたことは残念だったとも述べた。F精神保健福祉士は、Gさんにどのような支援があったらより早く就労できたと思うか質問し、Gさんが答えてくれた内容を次の支援にかしていくことを約束した。

次のうち、この面接を実施した支援過程として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 モニタリング
- 2 再アセスメント
- 3 エバリュエーション
- 4 終結
- 5 アフターケア

問題 41 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うストレングス視点に基づく援助として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士が、クライアントにストレングスを身につけさせる。
- 2 クライアントの希望や願望を援助目標に反映させる。
- 3 精神保健福祉士が、援助過程の方向性や内容を決定する。
- 4 援助において、精神保健福祉士が主に活動する場は、地域である。
- 5 資源を活用する際には、一般的な資源よりも精神保健福祉サービスを重視する。

問題 42 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うグループワークとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神科病棟では、グループ活動におけるメンバーの発達や成長を他の専門職とともに評価する。
- 2 地域活動支援センターでは、プログラムを参加メンバーの主治医が指示した内容にする。
- 3 就労継続支援B型事業所では、グループワークに活用する資源を施設内にとどめる。
- 4 保健所デイケアでは、全員にグループへの参加を義務づける。
- 5 精神科デイケアでのグループワークでは、同一メンバーで期間を限定せずに活動を継続し、安心感を保持する。

問題 43 H精神保健福祉士は、2週間前に再入院した統合失調症のJさん(29歳、男性)の母親との面接で、次のようなことを聞いた。入院前、母親は「1日も早く復職できるように頑張りなさい」と毎日のようにJさんを励ましていたらしく、「病気に甘えているとしか思えない。なぜいつまでもごろごろしているのか」と言っていたとのことであった。また、母親は「私の育て方が悪くて病気になったのでしょうか」といらだちと不安を覚えている様子であったため、H精神保健福祉士は、母親にある提案をした。

次のうち、この面接の時点でH精神保健福祉士が提案した母親への支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族心理教育プログラムへの参加
- 2 訪問看護の利用
- 3 元気回復行動プラン(WRAP)の紹介
- 4 ホームヘルプサービスの利用
- 5 地域活動支援センターⅢ型の利用

問題 44 「障害者総合支援法」における精神障害者の地域移行支援に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 一般病床に1年以上入院している者も利用できる。
- 2 特別養護老人ホームに入所している者も利用できる。
- 3 障害者支援施設に入所している者も利用できる。
- 4 「医療観察法」に基づき、指定医療機関に入院している者も利用できる。
- 5 グループホーム(共同生活援助)に入居している者も利用できる。

(注)1 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

2 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 45 精神保健福祉士がかかわる地域ネットワークに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ネットワークを構成するメンバーは、専門職でなければならない。
- 2 インフォーマルネットワークより、フォーマルネットワークを重視する。
- 3 ネットワークを構成するメンバーの間では、対等性を保つようにする。
- 4 マクロレベルでは、利用者とその家族に働きかけ、ネットワークを形成する。
- 5 既存の社会資源よりも、新たな社会資源を用いて、ネットワークを形成する。

問題 46 精神障害者のケアマネジメントのモデルに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「総合型」は、「包括型」とも呼ばれており、医学モデルに基づくケアマネジメントを行う。
- 2 「リハビリテーション型」は、ケアマネジャーと利用者との治療関係を重視し、心理的アプローチを中心とする。
- 3 「臨床型」は、病院から地域移行をする利用者を対象とし、医療専門職がケアマネジャーになり実施する。
- 4 「ストレングス型」は、利用者の能力の向上のための技能訓練を中心にした支援が行われる。
- 5 「仲介型」は、利用者とサービスを結びつけることを中心とし、サービスの<sup>あつせん</sup>調整を主な機能としている。



問題 47 精神保健福祉士の地域を基盤とした支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域における精神科救急サービスのシステムとして、包括型地域生活支援(ACT)チームを活用する。
- 2 精神障害者と市民との橋渡しを行う存在として、精神保健福祉ボランティアの養成を行う。
- 3 専門職による支援を補完するものとして、ソーシャルサポートネットワークを活用する。
- 4 谷中輝雄が提唱した「ごく当たり前の生活」を実現するために、一般的な生活習慣の獲得を目指したプログラムを実践する。
- 5 コミュニティソーシャルワークの視点に立って、地域の問題点を明らかにする地区診断を行う。

問題 48 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うソーシャルインクルージョンの理念に基づいた地域精神保健福祉活動として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者への福祉サービスの情報提供に際し、病状が改善していることを前提とする。
- 2 精神障害のあるホームレスの支援に際し、制度の活用を控え自助を中心とする。
- 3 精神障害のある生活困窮者の支援に際し、精神科病院への入院調整を進める。
- 4 グループホームの設立に際し、町はずれの土地を探しコンフリクトを防ぐ。
- 5 自殺予防に際し、プライマリケアにおけるゲートキーパーを育成する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

### [事 例]

Kさん(23歳、男性)は、この5年間、コンビニに買い物に行く程度で、「仕事はするよ」と口にはしているが、自室でテレビを見たりパソコンゲームをしたりする生活をしてきた。ひきこもるようになったのは、高校時代に仲の良かった友人とのトラブルがあり、それ以降登校しなくなってからである。Kさんは小学生のころ両親が離婚し、現在は母親と3歳年上の兄との3人暮らしである。母親とは日常会話はしているが、ひきこもるようになったきっかけや将来のことなどについて話すことはなかった。

母親は何とかしなければと悩んでいたが、県の精神保健福祉センター(以下「センター」という。)で、ひきこもっている当事者や家族への個別相談、家族のセルフヘルプグループ、当事者を対象としたグループワークなどの支援が実施されていることを知り、そのことをKさんに話した。Kさんがその話に対し少し関心を示したように思えたため、母親はセンターに相談に行き、L精神保健福祉相談員が面接を担当した。(問題 49)

その後、母親はL精神保健福祉相談員との面接を継続し、センターで月1回開催されている「ひきこもり家族の会」というセルフヘルプグループに参加するようになった。このグループに参加するようになってからの母親は、表情も明るくなりKさんと今後のことについても少しではあるが、話すことができるようになってきて、Kさんへの直接支援をしてほしいと依頼した。(問題 50)

ところが、数日後に母親から電話があり、「理由は分からないが、Kは私との会話も少なくなり自室にこもりがちになってしまった。センターのことを話すと、自分で仕事を探すから放っておいてくれ、と話に乗ってこない」とのことだった。Kさんがセンターに通うようになることを期待していた母親は、落胆して「どうしてよいか分からない」とため息をついた。そのため、母親も参加してケア会議を開き、状況把握と今後の支援の方針を確認した。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉相談員の母親への対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Kさんを説得して一緒に来所するよう伝えた。
- 2 早期に解決できる可能性が高いと励ました。
- 3 精神科の治療を受けた方がよいとアドバイスした。
- 4 センターの支援のプログラムについて説明した。
- 5 障害者就業・生活支援センターに相談に行くよう勧めた。

問題 50 次の記述のうち、母親からの依頼に際して、L精神保健福祉相談員が行う対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Kさんと会うために家庭訪問する。
- 2 母親の変化を一緒に振り返る。
- 3 直接支援を始めるのはまだ早いことを伝える。
- 4 すぐに当事者を対象としたグループワークへ参加するよう勧める。
- 5 母親への支援から兄への支援に切り替える。

問題 51 次の記述のうち、ケア会議で検討された支援の方針として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 センターの母親への支援を継続する。
- 2 Kさんへの支援は、母親に任せる。
- 3 Kさんに心理療法を行う機関を紹介する。
- 4 Kさんにアルバイトをするよう勧める。
- 5 Kさんを世帯分離して、生活保護を申請するよう提案する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)

次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。

### [事例]

Mさん(47歳、男性)は、統合失調症で精神科病院に約7年入院していた。Mさんの家族は76歳になる母親だけである。アパートの収入もありなんとか暮らしてきた。Mさんは、軽度の精神症状が残存していたものの、5年前から任意入院となり、社会生活技能訓練(SST)などにも参加していた。精神科病院の精神保健福祉士がMさんの母に退院後の同居について何度か打診したが、入院前に暴力を振るわれたことなどを理由に同意が得られずにいた。このようなとき、Mさんは精神科病院の精神保健福祉士から精神障害者の地域移行支援事業があることを聞き、利用を希望した。そこで、V相談支援事業所からN精神保健福祉士が、地域移行推進員として精神科病院に訪問に行くことになった。N精神保健福祉士は自己紹介と自分の役割を説明した後、Mさんの緊張をほぐすように配慮しつつ、まず必ず聞いておくべきことを中心にMさんから話を聞いた。(問題52)

この訪問の後、N精神保健福祉士は2週間に一度Mさんを訪問することとなった。3回目の訪問の際、N精神保健福祉士はMさんから「母に会って自宅への退院を許してくれるよう頼んでほしい」と言われた。この時点でN精神保健福祉士はMさんの母親とは面識がなかった。N精神保健福祉士は、Mさんから必要と思われる情報を得た後、Mさんの依頼に対する自分の考えを述べた。(問題53)

6回目の訪問のとき、Mさんは「退院後、一人暮らしは不安だ。障害年金だけでは生活できそうもないし、すぐ仕事に就く自信もない」と話した。この発言を受けてN精神保健福祉士はMさんに、退院後の生活のプランを具体的に進めるための提案をした。(問題54)

その提案を受け入れたMさんは、その後も、N精神保健福祉士ら支援者と相談しながら、退院後の生活上の課題や不安を一つずつ解決していき、支援開始後、約半年で退院した。Mさんは現在、「母親ともいい関係に戻れた。N精神保健福祉士の支援なしに今の自分の生活は考えられない」と話している。

問題 52 次の記述のうち、この時点の面接でN精神保健福祉士が、Mさんから聞いておくべき内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Mさんに現在残っている幻覚や妄想の内容とその程度。
- 2 Mさんの生活能力あるいは生活支援の必要性。
- 3 Mさんの退院に対する考えと退院後希望する生活の内容。
- 4 Mさんの退院に向けて、家族から受けられる支援の内容。
- 5 MさんがN精神保健福祉士に対して抱いた印象。

問題 53 次の記述のうち、N精神保健福祉士がMさんに話したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Mさんの依頼は、地域移行の支援者としての私の役割の範囲を超えるものである  
ので、もう一度病院の精神保健福祉士にお願いしてみしてほしい。
- 2 私は、これまでのいきさつや母親の年齢から考えて、Mさんが母親と同居するの  
は無理であると思うので、別の退院先を考えよう。
- 3 私はMさんの母親とは面識がないので、院内の社会生活技能訓練の場を利用して、  
Mさんが自分の気持ちを自分で伝える力をつける方が話が早く進むと思う。
- 4 私が直接依頼するより、Mさんと母親が直接話し合った方がいいので、Mさん自  
身が母親に退院後の同居の希望を伝えやすい環境を作る支援を行いたい。
- 5 私は自分で判断する立場にないので、本日Mさんが話した希望を、所属するV相  
談支援事業所の上司に報告して、次回会うときに回答する。

問題 54 次の記述のうち、N精神保健福祉士がMさんに提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 公共職業安定所(ハローワーク)の障害者の受付窓口に行き、求人状況を確認してみたらどうか。
- 2 一人暮らしは難しいので、グループホームを見学してみたらどうか。
- 3 精神障害者のピアサポーターを紹介するので、その人の話を聞いてみたらどうか。
- 4 障害年金を増額できないか、社会保険労務士の事務所で相談してみたらどうか。
- 5 社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の利用を考えてみたらどうか。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

[事 例]

地域活動支援センター I 型の W センターは、人口 13 万人の地方都市の商店街の一角にある。2 年前の開設に際しては、商店街の人たちから施設設立に反対する意見があがり、市や市議会議員らの尽力で何とか開設にこぎつけたという経緯がある。同じ商店街には、W センターが運営している X 喫茶店があるが、地域住民の利用はほとんどない。W センターの A 精神保健福祉士は、X 喫茶店や W センターの活動をもっと地域に根づいたものにしたいと考え、この地区を担当する民生委員の B さんと話し合い、まずは住民のニーズを把握してみようということになった。そこで A 精神保健福祉士は、様々な立場の地域住民に一堂に集まってもらい意見を聞く機会をもつことにし、利用者や B さんの協力を得ながら準備を重ねた。当日は、A 精神保健福祉士がファシリテーターの役割を担い、参加者に互いの考えを尊重し合いながら、自分の暮らす町についての意見を自由に出し合ってもらった。(問題 55)

参加した地域住民からは、交流の機会となっていた商店街の祭りが数年前から開催されなくなったことや、住民同士が知り合い、つながる場が少なく残念だという意見が多く出された。そして最後には、地域の子どもや大人と一緒に楽しむ、障害者との交流の機会にもなるようなイベントを開催したいという意見でまとまった。そのとき、参加者の 1 人から、X 喫茶店を会場にした絵画教室の開催と、その作品を商店街に展示するまちかどギャラリーの提案があり、参加者から賛同の声があがった。そこで A 精神保健福祉士は、参加者を中心に実行委員会を組織化した。数回の話し合いと準備を重ね、約 3 か月後に絵画教室と商店街でのギャラリーが開催されたが、多くの人が商店街に足を運び盛況だった。このイベントは、その後も継続し定期的に開催され、地域住民同士や、住民と障害者との自然な交流が生まれる場となった。(問題 56)

この地域では、絵画教室とまちかどギャラリーが継続的に開催されるにしたがって、住民同士の付き合いや交流の機会が増えていった。そして、徐々に住民同士の信頼感や結束力が高まり、様々な活動が生まれた。(問題 57)

問題 55 次のうち、この場面でA精神保健福祉士が行ったニーズ把握の方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 半構造化インタビュー
- 2 パブリックコメントの募集
- 3 アンケート調査
- 4 フィールドワーク
- 5 ワークショップ

問題 56 次のうち、この活動においてA精神保健福祉士が果たした機能として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 セルフヘルプグループ
- 2 広報などによる情報提供
- 3 地域ケアシステムの構築
- 4 ソーシャルビジネスの創設
- 5 社会資源の開発

問題 57 次のうち、この活動を通して地域に形成されたものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルキャピタル
- 2 ソーシャルファーム
- 3 ソーシャルプランニング
- 4 ソーシャルポリシー
- 5 ソーシャルアクション



## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

### 〔事例〕

Cさん(23歳, 女性)は, 高校3年生の春ごろから, 「周りから悪口をいわれる」「死にたい気分になる」と話すようになり, 精神科初診時に統合失調症と診断された。卒業後は予備校へ通学したが, 幻聴が強く, 自殺企図があり, 3か月間入院した。入院を契機に予備校を退学し, 退院後は自宅学習を続けながら, メロン・梨・トマトなどを栽培する実家の農業を手伝っていた。両親, 祖母と同居し, きょうだいはいない。

集中力の低下, 幻聴体験が継続し, Cさんは大学進学を断念。20歳の春からは実家の農業でトマト栽培を担当し, 給料をもらうようになった。月2回の外来受診を継続し, ときに幻聴体験, 対人緊張が高まる場面でのめまいや動悸, 自傷行為があるものの, 入院するまでには至らなかった。家事を母親と分担し, 仕事の合間には, 中国語講座に参加したり, 好きなミュージカルの公演やコンサートを楽しんでいた。

21歳のとき, Cさんは「毎年主治医が変わっている。いろいろゆっくり話ができる相手がほしい」と希望し, 主治医からD精神保健福祉士に継続面接の依頼があった。初回面接で, Cさんは「時々, ふっと死にたくなるときがある」「農業には自信ができてきた」「家族に心配かけたくない, 病気のこといろいろ話せない」「同級生に会うと, やはり進学したかったと思う」「人と一緒の場は緊張して疲れる」「仕事や生活も, このままでいいのかと考えてしまう」と語った。(問題 58)

半年後, Cさんは, 町内会の行事に母親の代理で参加することになり, 幻聴体験, 希死念慮が強まり, 2か月間入院した。自宅への退院に際し, 「人付き合いが心配。でも, 気楽に話ができる場があるといい」というCさんに, D精神保健福祉士はデイケアでのグループ活動へ参加することを提案した。(問題 59)

その後1年が経過し, Cさんの病状はずっと安定している。面接の中で「トマト栽培は出荷を任されるようになった。育てることが面白くなってきた」「中断していた中国語講座に行き始めた」「また悪くなるかもという不安はあるけど, デイケアの時間を他のことに使って, 自分のできることを広げてみたい」と話した。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点で、D精神保健福祉士が行うCさんへの支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自殺の話には触れないようにする。
- 2 農業以外の就労可能性を検討する。
- 3 進学に再チャレンジするよう励ます。
- 4 家族からの独立を目指し、単身生活の訓練を始める。
- 5 安心して思いを語ってもらえる関係をつくる。

問題 59 次のうち、D精神保健福祉士がこの活動を勧めた目的として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 服薬管理
- 2 仲間づくり
- 3 就労訓練
- 4 生活スキルの獲得
- 5 対人ストレスへの対処方法の習得

問題 60 次の記述のうち、この時点で、D精神保健福祉士が行うCさんへの支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立支援給付を利用するためのアセスメントをする。
- 2 病状の変化が心配なので、このまま様子を見る。
- 3 農業をもっと学ぶことができる場や機会を探す。
- 4 当事者活動に積極的に参加するよう勧める。
- 5 両親の意見や意向を優先する。

## 精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 61 精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 決定に不服がある場合、上級審査機関に審査請求することができる。
- 2 精神医療審査会運営マニュアルによると、取り扱った審査の資料及び議事内容の記録については、少なくとも5年間は保存するものとされている。
- 3 退院等の請求を受けて、精神科病院の管理者に対し、退院や処遇改善を命じることができる。
- 4 退院等の請求では、やむを得ない事情がある場合を除き、請求受理からおおむね1か月以内に、審査結果を通知するものとされている。
- 5 退院等の請求では、同一内容の請求が頻回にある場合、すべて意見聴取を行うこととされている。

問題 62 次の記述のうち、障害者の定義に関する法律上の規定として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害者支援法では、発達障害者を「発達障害を有するために日常生活又は社会生活に制限を受ける者」と規定している。
- 2 「障害者差別解消法」では、障害者を「障害及び社会的障壁により長期にわたって、日常生活又は社会生活に制限を受ける状態にあるもの」と規定している。
- 3 「障害者総合支援法」では、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法及び「精神保健福祉法」の各個別の法律で定義されている障害者と規定している。
- 4 「精神保健福祉法」では、精神障害者を「統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害を有する者」と規定している。
- 5 「障害者雇用促進法」では、障害者を「身体障害又は知的障害があるため、職業生活に相当な制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難な者」と規定している。

- (注) 1 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。
- 2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。
  - 3 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。
  - 4 「障害者雇用促進法」とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。

問題 63 健康保険に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 業務上の事由により精神疾患に罹患<sup>りかん</sup>した場合、精神科病院で健康保険による診療を受けることができる。
- 2 健康保険に加入している精神障害者が精神科病院に入院した場合、食事代は保険適用されず、実費負担となる。
- 3 健康保険に加入している精神障害者の疾患が長期化した場合、1年半を経過すれば、障害給付等を受けることができる。
- 4 健康保険に加入している精神障害者は、医師の指示に基づいて看護師から訪問看護を受けた場合、保険給付がなされる。
- 5 健康保険に加入している精神障害者が死亡した場合、金額にかかわらず、埋葬に要した費用の実費額が埋葬料として支給される。

問題 64 事例を読んで、E精神保健福祉士がFさんに説明した介護保険制度の利用に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Fさん(65歳、男性)は、10年間、統合失調症の治療のため、精神科病院に入院している。この度、主治医から病状も安定しており、退院の準備をすすめてほしいとE精神保健福祉士へ依頼があった。Fさん自身は、「できれば地域で自由に暮らしたい」とその意向を述べている。E精神保健福祉士は、Fさんの地域での暮らしを支えるために、具体的に介護保険制度の利用の検討を始めた。

- 1 介護保険制度に相当するものがないサービスについては、「障害者総合支援法」の障害福祉サービスも利用できることを説明した。
- 2 精神科病院に入院中のため、住所地特例の対象となることを説明した。
- 3 介護保険サービスの利用は、住所地の事業所に限定されるため、事業所の多い市町村への転入を検討した方がよいと説明した。
- 4 居宅サービス計画作成を指定居宅介護支援事業所に依頼した場合、その費用の1割を負担することになると説明した。
- 5 精神科病院入院中に、要介護認定の申請を行うことはできないため、退院日に申請しましょうと説明した。

問題 65 保護観察官に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 保護観察対象者から、収入・支出の状況等生活の実態を示す事実を聞き取る。
- 2 非行のある少年を除く犯罪をした者の更生保護を行う。
- 3 法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員である。
- 4 更生保護施設に配置され、保護観察対象者の社会復帰のための指導・援助を行う。
- 5 公共職業安定所(ハローワーク)の職業指導官と就労支援チームを組む。

問題 66 更生保護施設と自立準備ホームに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 全国の更生保護施設の設置状況(平成22年10月1日時点)をみると、女子施設、男子施設がほぼ同じ割合で整備されている。
- 2 更生保護施設とは、引受人がないなどの理由で適切な居住地が見つからず、生活の場が確保できない人を保護するための施設で、厚生労働大臣が認可する。
- 3 自立準備ホームとは、あらかじめ保護観察所に登録されたNPO法人、社会福祉法人などが、それぞれの特長をいかして、自立を促す施設である。
- 4 民間の更生保護施設は宿泊施設の位置づけであり、社会生活技能訓練(SST)や酒害・薬害教育等の効果的な補導援護処遇は、精神科病院が担う。
- 5 宿泊保護対象者は、更生保護施設、自立準備ホームのいずれか1つを選択することができる。

問題 67 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対象行為は、殺人、強盗、放火、強姦<sup>ごうかん</sup>、強制わいせつの5つである。
- 2 対象者は、起訴され判決が確定した者を除き、心神喪失で不起訴となった者である。
- 3 目的は、対象者の医療及び保護である。
- 4 通院医療では、精神保健参与員による精神保健観察が実施される。
- 5 地域処遇の実施期間中でも、「精神保健福祉法」の措置入院になる場合がある。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 68 社会復帰調整官に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保護観察所には、社会復帰調整官を配置することが望ましいとされている。
- 2 当初審判では、生活環境の調査を基に対象者の処遇を決定する。
- 3 入院中から退院後の円滑な地域移行を目指し、生活環境の調整を行う。
- 4 資格要件は、対人援助にかかわる国家資格を有し、かつ3年以上の業務経験のある者と規定されている。
- 5 審判において、精神保健福祉の観点から必要な意見を述べる。

問題 69 政令指定都市のP市精神保健福祉課では、障害者福祉計画の策定に伴い、精神障害者のニーズ調査と市民を対象とした精神保健福祉に関する意識調査を実施することになった。P市では、このような調査は初めてであった。ニーズ調査については、精神障害者の実態を把握することができるように精神障害者保健福祉手帳所持者を対象とすることになり、抽出した対象者にアンケート用紙を送付することにした。

次のうち、今回実施することとなった調査方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 縦断調査
- 2 自計式調査
- 3 悉皆調査しっかい
- 4 集合調査
- 5 訪問面接調査



## (精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題 70 から問題 72 までについて答えなさい。

〔事例〕

市役所の保健福祉課総合相談窓口の G 精神保健福祉士のもとに、H 民生委員から相談が入った。相談は、担当地域に暮らす J さん(66 歳、男性)とその妻 K さん(65 歳、女性)のことであった。ここ数か月 K さんの姿を見かけなくなり、そのことを J さんに尋ねても、「実家に帰っている」としか答えてもらえない。しかし、近所の人たちからは、K さんの叫び声や J さんの激しく叱責する声しっせきが聞こえるとの話であった。虐待のおそれがあるものの、どう対処してよいのか分からず相談に来たというのである。G 精神保健福祉士は、H 民生委員の話から虐待のおそれのある事案としてとらえ、J さん K さん夫婦への接触を試みることにした。(問題 70)

翌日、G 精神保健福祉士と H 民生委員が J さん宅を訪問したところ、J さんは「どうして来たのか」といった感じで話したがらなかったが、少しずつ語りだした。J さんの話によると、K さんは家事と翻訳の仕事をしながら自宅で過ごしていたが、2 年余り前から、K さんが何度も同じことを言うなど様子がおかしくなってきた。そして、家事を満足にできなくなってきたため、総合病院を受診した。その結果、K さんは若年性アルツハイマー型認知症と診断されたという。しかし、J さんも K さんもその診断結果を受け入れられず、以来、受診はやめたとのことであった。(問題 71)

J さん K さん夫婦は、一戸建て住宅に住み年金暮らしである。近くに親戚しんせきはおらず、一人息子(32 歳)は結婚して現在県外で暮らしているため、ほとんど行き来がない。K さんは、認知症の症状が進んでいるようだが、玄関先から見えた自宅の中は、かなり散らかっていた。K さんに面会したところ、奥の部屋で横になった状態で髪の毛はボサボサで何日も入浴していない様子で、痩せこけており、H 民生委員は以前の様子との違いに驚いていた。この後、G 精神保健福祉士は必要な対応を行った。(問題 72)

問題 70 次の記述のうち、この時点でのG精神保健福祉士の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 H民生委員に対し、Jさん、Kさんの同意がなければ、民生委員法の秘密保持義務に違反すると指導した。
- 2 H民生委員の相談は、民生委員法の秘密保持義務に抵触しないと伝えた。
- 3 H民生委員からの相談を基に、住民基本台帳からJさん世帯の状況を確認した。
- 4 Jさん、Kさんの同意なしに、勝手に世帯状況等の個人情報を調べたり、H民生委員へ提供することは、「個人情報保護法」に抵触すると伝えた。
- 5 Jさん、Kさんの個人情報をH民生委員へ提供することは、精神保健福祉士法の秘密保持義務に違反すると伝えた。

(注) 「個人情報保護法」とは、「個人情報の保護に関する法律」のことである。

問題 71 次のうち、この時点でG精神保健福祉士が、JさんKさん夫婦を結びつける機関として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害者虐待防止センター
- 2 発達障害者支援センター
- 3 地域活動支援センター
- 4 地域生活定着支援センター
- 5 地域包括支援センター

問題 72 次の記述のうち、G精神保健福祉士の行った対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 虐待事例に相当することをJさんに自覚させ、Jさんの同意を得た上で、Kさんを特別養護老人ホームへ入所措置することとした。
- 2 Jさんの同意を得ることができないため、現状のままKさんを見守るほかないと判断した。
- 3 Kさんが虐待を受けている可能性がある判断し、直ちに立入調査を行うため、警察に援助要請を行うこととした。
- 4 KさんをJさんと分離し、虐待から保護する目的のため、認知症治療病棟のある精神科病院へ入院させることとした。
- 5 Kさんが虐待を受けているおそれがあると考え、高齢者虐待対応協力者とも連携することとした。

## 精神障害者の生活支援システム

問題 73 「障害者白書(平成 25 年)」(内閣府)における外来の精神障害者の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 65歳以上の者の割合を2005年(平成17年)と2011年(平成23年)で比較すると、約5%減少している。
- 2 精神科初診時の年齢は、いずれの疾患の場合でも、20歳未満が40%を超えている。
- 3 疾患別構成割合では、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害のある者の割合が30%を超えている。
- 4 障害年金受給者は約25%であるが、統合失調症のある者では40%を超えている。
- 5 一人暮らしをしている者は約50%で、家族と同居している者を上回っている。

問題 74 統合失調症のため約8年間入院していた精神科病院を退院したLさん(62歳、男性)は、身寄りもなく、持家で単身生活を始めて6か月が経過した。生活費は毎月の障害年金と預貯金(約350万円)で賄っている。最近、Lさんは、多少物忘れがみられるようになり、判断能力も徐々に低下し、金銭管理の面でも支障が出るようになってきた。つい先日も、通帳と印鑑の保管場所を忘れて、生活費を銀行から引き出すことができなくなってしまった。

次のうち、現時点でLさんが利用するにふさわしい制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 成年後見制度
- 2 生活福祉資金貸付制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 意思疎通支援事業
- 5 精神障害者アウトリーチ推進事業

問題 75 住宅入居等支援事業(居住サポート事業)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 実施主体は、都道府県が原則である。
- 2 「住宅セーフティネット法」に位置づけられた事業である。
- 3 夜間を除き、日中に必要な支援を実施する。
- 4 利用期間については、期限を設けてはならないとしている。
- 5 本人と家主等との入居契約の手続支援を行う。

(注) 「住宅セーフティネット法」とは、「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律」のことである。

問題 76 「平成 24 年障害者雇用状況の集計結果」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 民間企業において雇用されている障害者の数は、2011年(平成23年)と比較してみると、減少した。
- 2 民間企業において雇用されている障害者の数を2011年(平成23年)と比較してみると、障害種別のうち、精神障害者の増加率が最も大きかった。
- 3 特例子会社に雇用されている障害者の数をみると、障害種別のうち、精神障害者が最も多く占めていた。
- 4 雇用されている障害者の数を、企業規模別に2011年(平成23年)と比較してみると、300人未満の企業で減少した。
- 5 障害者を1人も雇用していない企業が、法定雇用率の未達成企業に占める割合は、10%程度となっていた。

問題 77 福祉系大学で精神保健福祉を学び、精神保健福祉士の資格を取得したMさんは、卒業後、郷里のQ県に採用された行政職員である。Mさんは、県民のために学んだ知識や技術をいかしたいと願っていたところ、「精神保健福祉法」に基づく総合的な技術中核機関への配属となった。

次のうち、Mさんが勤務することになった機関として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 保健所
- 2 地域活動支援センター
- 3 基幹相談支援センター
- 4 精神保健福祉センター
- 5 精神障害者社会復帰促進センター

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

## (精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

### [事 例]

人口 5 万人の R 市の障害福祉課に勤務する N 精神保健福祉士は、民生委員から、A さん(35 歳、男性)の訪問に同行してもらえないかとの依頼を受けた。理由を尋ねると近くのアパートの家主から、「設備点検で A さんの部屋を訪ねたところ、真っ暗な部屋にいたので心配になった」と相談された。すぐに A さんを訪問して困りごとを尋ねたが、「眠れない」と言った後は沈黙が続いた。最後に N 精神保健福祉士のことを話すと「会ってもいい」と言っていたとのことであった。

翌日、民生委員と同行訪問したところ、A さんは次のように話した。「家族はもういない。19 歳のときに統合失調症の診断を受けて以来、片道約 2 時間の Y 病院に通院している。障害年金と親が残した預金でやりくりしてきたが、残額が 3 万円になり、電気代の支払いも滞っている。とても不安だ。交通費がかかるので、次の受診をどうしようか迷っている」。(問題 78)

このことがきっかけとなって、A さんは時々、N 精神保健福祉士に電話をかけてくるようになった。数か月後、A さんから「近所が騒がしくて困る」と電話があり訪問したところ、大変な暑さの中、耳を覆う形のヘッドフォンを装着していた。しかし、音楽プレーヤー等には接続しておらず、それを問うと「他の部屋がうるさいんですよ。でも言いに行くといけないからね。これするとましなんです」とヘッドフォンを指した。じっくりと A さんの話を聞くと、1 週間ほど、ほとんど睡眠がとれておらず、「前に一度入院したことがある Y 病院に入院したい」と言った。そして部屋は静かであるのに、「ほら、あれです。やかましいでしょ」と何度も言った。(問題 79)

今から受診が可能か Y 病院に電話をしようと N 精神保健福祉士が A さんの部屋を出ると、隣室に住んでいる女性に呼び止められてこう言われた。「その人、大丈夫なんですか。いつもコードを垂らしたヘッドフォンつけて、ブツブツ言われてますよ」。N 精神保健福祉士は、A さんの病気のことやご近所に配慮を相当していることを、女性にこの場で話をして理解を得たいと考えたが、それは思いとどまった。(問題 80)

問題 78 次のうち、この時点でN精神保健福祉士が同行する機関等として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 保健所
- 2 精神保健福祉センター
- 3 福祉事務所
- 4 公共職業安定所(ハローワーク)
- 5 指定特定相談支援事業所

問題 79 次の記述のうち、Aさんが入院することになった場合、その入院に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんの入院期間は、72時間を超えない範囲に限られている。
- 2 Aさんが退院を申し出た場合であっても、48時間を限度に退院させないことができる。
- 3 入院に当たっては、1名の精神保健指定医が診察する必要がある。
- 4 退院等の請求に関することを、書面でAさんに知らせる。
- 5 入院に当たっては、2名以上の精神保健指定医が診察する必要がある。



問題 80 次のうち、N精神保健福祉士が思いとどまった法的根拠として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域保健法
- 2 地方公務員法
- 3 障害者基本法
- 4 精神保健福祉法
- 5 障害者総合支援法

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。